

人生100年時代のバイブル

健康寿命

人はいかに生きるべきか

美齡学

ジェロントロジー

生きるほどに美しく

Beautiful Aging

ジェロントロジー

人はいかに生きるべきか

山野学苑総長

山野正義

「わたし、老けたなあ……、
と思つたら、

この本を開いて
ごらんなさい。

1ページ読み進むにつれて、
皺の一本、シミの二つが
消えていくような
気がしますぞ！」

作家・エッセイスト

阿川佐和子

朝日新聞出版

「高齡者よ、
大志を抱け」

元内閣総理大臣

小泉純一郎

◆事業化にチャレンジ

訪問美容がメインになる美容福祉は、それだけでは事業化するのは難しいと言われていた。というのも、訪問美容は福祉としての側面が強く、ボランティアの一環として行われる傾向が、いまだに色濃く残っているからである。

利用者は、ボランティアの人に対しては、申し訳なさが先に立って、自分の好みや要望をなかなか伝えられない。そのため、訪問美容といえは画一のお粗末なサービスというイメージが、強くついてしまった。

だが、事業として立派に成長しているところもある。「訪問美容と和わ／コミュニケーションサロンと和」のチーフディレクターとして活躍している小池由貴子氏の志とアイデアあふれる話からは、社会起業家としての行動力と利用者本位の姿勢がエキサイティングに伝わってきた。(日本美容福祉学会誌Vol.16)

訪問美容を必要とする人は、実際は高齢者や障がい者だけではない。うつ病などで外に出られない人や、リハビリ生活を送っている人、子育て中で忙しい母親など、多くの人が美容サービスを満足に受けられずにいる現状がある。見過ごされがちな「美容難民」

と言えるこうした人々にも働きかけ、「ご利用者様のQOLの向上に寄与し、さらにはご家族の介護負担の軽減にも努めています」と小池氏は語る。

小池氏がトータルビューティによるケアとして訪問美容をスタートさせたのは、2011年のことだ。実際の美容室に近いサービス内容をセールスポイントに、顧客開拓に練り出した。ケアマネージャーへの営業や地域包括支援センターへの訪問などを積極的に行うことは、待ちから攻めの姿勢に転じる新しい美容師の活動スタイルである。

「訪問美容は、ヤクルトレイディのように、ご自宅におうかがいして商品をご提供します」
(小池氏)

小池氏は、若いころに難病を患い、1年間の車椅子生活を送った経験がある。その時期に体験した訪問美容は衝撃的であったという。外に出られない日が続くなか、前髪をたった5センチ切ってもらったただけなのに、「もとの自分に戻れた!」と、心の高揚を感じたというのだ。美容には人を笑顔にさせる力があると知ったことが、今回の事業化への挑戦につながった。

訪問美容で最も重要なものはコミュニケーションスキルである。美容の時間が心地よい時間となるには、しっかりとしたコミュニケーションスキルが欠かせない。

「美容師は、つらい思いも共有できる、よき理解者のような存在であることが求められています。ご家族の方にとっても、いろいろと相談したり、ときには第三者に弱音を聞いてもらいたいというニーズがあります」

これは、すべての美容師に求められるスキルである。

訪問美容師が唯一の外からの訪問者という利用者も珍しくない。利用者にとって美容ケアは、外の世界とふれあう貴重な時間であり、それが自ら外に出る第一歩になるという効果も生んでいる。価格はサロン並みだが、サービスの質の対価として納得してもらえているという。

2014年には、「おばあちゃん原宿」こと東京・巣鴨の地藏通りにユニバーサルデザインのサロンをオープン。車椅子対応、完全個室ありなどを特徴にして、どんな人でも気軽に利用できるサロンであることを前面に打ち出した。高齢者も、障がい者も、おしゃれ志向の若者も、来る人はすべて受け入れ、町のコミュニティづくりに一役買っている。

私は、全国各地で活動している美容福祉師が、小池氏のような事業を展開するようになってほしいと願っている。この先は、美齢学を学んだ人が事業にチャレンジするため、地元に戻ってニーズの開拓に取り組むケースも出てくるだろう。そうした志ある人のための支援を、いまから準備するつもりでいる。

◆「ビューティフルライフコース」の構築とそのコンセプト

山野学苑では、美齢学を学ぶための教育プログラムとして「ビューティフルライフコース」を作り、学生はもちろん、現役美容師たちにも提供していく予定である。コースの内容は、高齢社会で美容師としてどのような役割を果たすかを掘り下げた、独創的なものとなるだろう。山野にしかできないオリジナルプログラムである。ビジネスとしての可能性もあらゆる方向から探り、プログラムに落としこむ。

以下は、そのコンセプトをまとめたものである。

- ◎高齢者のQOLの向上に役立つ広範な知識とノウハウを、すべて習得できる。
- ◎人々のQOL向上により、高齢社会は健康でいきいきしたものとなる。社会に大きく貢献することができる。

笑顔あふれる毎日が過ごせる 社会をめざして

訪問美容 と和 / コミュニティサロン と和
代表・チーフディレクター

小池由貴子

山野学苑でトータルビューティの大切さを学び、訪問美容を始めてから10年が経ちました。当初は「訪問」することでお客様に喜んでいただくことをめざしていましたが、「元気で美容室へ足を運ぶこと」を望む方も多く、東京の巣鴨にユニバーサルデザイン美容室、「コミュニティサロン と和」を開設しました。そして、子育て中のお母様など、ご高齢や療養中といった事情以外にも美容室を利用しにくい方々がいることに気づいたのです。そうしたさまざまな事情を抱えるお客様に心置きなく美容の施術を受けていただき、笑顔あふれる毎日が過ごせる社会を実現する。それが「と和」の想いとなりました。そのためには私たち美容師も、美容はもちろんコミュニケーションや介護のスキルが求められます。現在、すべてのスタッフが介護職員初任者研修（旧称：ヘルパー



2級)を取得し、お客様の笑顔のために取り組んでいます。山野正義総長が提唱する「美齢学」の講座も受講し、また現場を通して、改めて「美は人生を豊かにする」ことを実感する毎日。定年のない私たち美容師だからこそ、80歳、いや90歳まで長く働くことで、より多くの方々の笑顔のために貢献していきたいと思っています。

大阪大学と青山学院大学以外にも、国公立、私立を問わず多くの大学から、美齢学をカリキュラムに、あるいは研究テーマに取り入れたいとの相談を受けている。この先、美齢学は本格的な研究・開発の対象となり、建築学や経済学と同様に、スタンダードな学問として世界中で学ばれることになるであろう。

いま、世界の人々が必要としているのは、自らの生き方を学ぶ学問である。美齢学の追究と発展が世界に広まり、平和、人権、安心に寄与する日がくるのはそう遠くないことを確信しているが、私が元気なうちにそれを見られることを楽しみにしている。